



私たちの生き方のエンブレム

第2地域 ロータリー公共イメージコーディネーター 神野 正博（七尾 RC）

去る7月13日(日)に、毎年恒例の3地域合同公共イメージ向上セミナーを実施し、100人以上の各地区のリーダーに参加いただきました。信頼の証としてのエンブレム、すべてのロータリー活動が公共イメージ向上につながることを、そして広報と公共イメージ向上の違いなどのお話と、公共イメージを向上する5つの事例の発表をいただきました。終了後のアンケートで、全体としては高評価であったものの、フリーコメントで、「地区の活動の参考になるように事例を多くしてほしい」旨の内容が多く、今後の参考にしていきたいと思います。

このセミナーを踏まえ、公共イメージ向上を一言で言えないか考えて見ました。ロータリー会員の皆様は、ロータリーにどんな人がいて、そして、成りたいロータリー会員像をイメージできるはずです。しかし、一般の人々はもちろん、これからロータリークラブに入会しようとする人々にそれが伝わっているのでしょうか。そして、ロータリーのエンブレムを見たときに人々は何をイメージできるのでしょうか。人々は、ロータリーを世界で、日本で、地域でよいことをしている組織と認識してくれているのでしょうか。ポリオ根絶を目指す、平和を構築する、DEIを大切にする、環境問題を考える、貧困問題を考える、青少年をエンカレッジしている、海外からの留学生を支援している、リーダーシップを涵養しているなど、、、の組織と認識してくれているのでしょうか。ロータリーのエンブレムを見たときに、信用・信頼という言葉が出てくるのでしょうか。

もし、そうではないのならば、それを作り出すための奉仕と公共イメージ向上戦略が必要になるに違いありません。なぜならば、私たちはロータリー会員として、この組織に所属している意義と誇りを持ちたいからなのです。

そういった意味で、私たちが創り出さねばいけないのは、ロータリーのエンブレム＝信頼の証なのではないのでしょうか。あのエンブレムのラベルボタン、旗を見たら「信頼に足りる人たちだ。」と認識されるために、私たちはイメージを向上させる取り組みを人に見せ、一人一人が仕事で、日常で、そして奉仕で実践すべきなのです。まさに私たちの生き方、そのものになるのかもしれませんが。

